

分野名	基礎分野	科目名	論理的思考
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	思考の形式と法則を学び、論理的で明確な言葉づかいと文章表現を身につける。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験70%、小テスト30%		
使用テキスト・教材	野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年		
履修にあたっての留意点	とくになし		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	論理とは何か	講義	兼任講師
2.	さまざまな接続関係	講義	兼任講師
3.	接続の構造	講義	兼任講師
4.	議論の組み立て	講義	兼任講師
5.	論証の構造と評価	講義	兼任講師
6.	演繹と推測	講義	兼任講師
7.	総復習	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	基礎分野	科目名	情報科学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	兼任講師		
目的	情報と情報システムについて理解し、医療・看護へ応用する能力を養う。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験70% 提出課題30%		
使用テキスト・教材	なし		
履修にあたっての留意点	・ほぼ毎回、授業前に期限付きのプレテストを実施し、評価に加える		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	オリエンテーション、電子メールの仕組み、メールアドレス配布	講義・演習	兼任講師
2.	電子メールの仕組み、情報セキュリティ(不正アクセス)	講義・演習	兼任講師
3.	インターネット上の情報の信頼性・ワープロソフトの基本操作	講義・演習	兼任講師
4.	互換性、ファイル形式と拡張子・テキストデータ処理 表計算ソフトの基本操作	講義・演習	兼任講師
5.	ハードウェアとソフトウェア 統計学1:記述統計学・ピボットテーブル	講義・演習	兼任講師
6.	統計学2:平均・分散・標準偏差	講義・演習	兼任講師
7.	統計学3:確率分布・正規分布の性質	講義・演習	兼任講師
8.	統計学4:推測統計学・統計的仮説検定	講義・演習	兼任講師
9.	統計学5:t検定	講義・演習	兼任講師
10.	統計学6:回帰分析と相関分析	講義・演習	兼任講師
11.	プレゼンソフトの基本操作・アナログ情報のデジタル化	講義・演習	兼任講師
12.	コンピューターネットワーク 統計学7:順序尺度の実例、プレゼン資料のデザインとグラフの調整	講義・演習	兼任講師
13.	プレゼン資料作成の注意・プレゼン資料の作成	講義・演習	兼任講師
14.	プレゼンテーションの実践	講義・演習	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	応用物理学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間生活における物理的事項や人体に関連した物理現象を取り上げ看護行為に応用することを学ぶ。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験70%、レポート30%		
使用テキスト・教材	医療系のための物理＜第2版＞ 東京教学社		
履修にあたっての留意点	・毎回配布する「確認問題」、時々配布する問題をあつまたプリントはマスターすること。 ・レポートはA4のレポート用紙の表のみを使用し、指示された日か次の講義日に提出すること。 ・疑問点は質問するか、リアクションペーパーに記すこと。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	講義ガイド(講義概要他) 測定と医療機器	講義	兼任講師
2.	検査値の単位 溶液濃度と国試	講義 問題演習	兼任講師
3.	力のつり合い ボディメカニクス	講義	兼任講師
4.	摩擦力と慣性の法則 運動と力の法則	講義	兼任講師
5.	力学的エネルギー保存の法則 歩行の物理学(実験)	講義体験実習	兼任講師
6.	静止流体 酸素ボンベと国試	講義問題演習	兼任講師
7.	運動流体 点滴速度と国試	講義問題演習	兼任講師
8.	点滴(実験)	体験実習	兼任講師
9.	心臓と血圧(物理学の視点から) 血圧測定	講義	兼任講師
10.	温度と熱 体温と体温測定	講義	兼任講師
11.	振動と波(1)単振動、波 振動と波(2)音、耳	講義	兼任講師
12.	復習用の計算問題 光と人体	問題演習講義	兼任講師
13.	電気の基礎 人体と電気	講義	兼任講師
14.	原子核と放射線 人体と放射線	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	心理学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間の行動の基礎にある原理を学ぶ。 自己の心理、対象の行動・知能・性格・情緒などを理解することをめざす。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験70%、レポート30%		
使用テキスト・教材	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 講談社		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	授業ガイダンス 心理学史	講義・演習	兼任講師
2.	臨床心理学	講義・演習	兼任講師
3.	臨床心理学	講義・演習	兼任講師
4.	学習心理学	講義・演習	兼任講師
5.	学習心理学	講義・演習	兼任講師
6.	発達心理学	講義・演習	兼任講師
7.	発達心理学	講義・演習	兼任講師
8.	発達心理学	講義・演習	兼任講師
9.	精神分析	講義・演習	兼任講師
10.	精神分析	講義・演習	兼任講師
11.	パーソナリティ心理学	講義・演習	兼任講師
12.	パーソナリティ心理学	講義・演習	兼任講師
13.	コミュニケーションの心理学・社会心理学	講義・演習	兼任講師
14.	講義の振り返り、国家試験と心理学	講義・演習	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	教育学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	教育と人間の成長発達の関係を学び、看護の機能としての教育的役割を果たす。さらに専門職としての生涯学習の必要性を理解する。		
目標	看護職の教育的機能を理解し、看護実践のなかで教育学の知識を活用しようとする姿勢を培うとともに、自らの教育観を相対化しつつ再構築し、教育に関してより多角的な見方・考え方ができるようになる。		
成績評価の方法と基準	最終筆記試験(60%)、中間筆記試験(26%)、コメントシートの内容(14%)		
使用テキスト・教材	授業の際、資料を配布します。		
履修にあたっての留意点	この授業ではテキストは指定しませんが、図書室や図書館で教育学の本を借りて読み進めるといったように、自主的に読書の習慣をつけることを推奨します。また、予習用に資料を配布した際には、次の授業までに取り組んでください。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	【教育学の概要と教育の定義】 教育学とはどのような学問なのかを把握し、教育とは何かについて語源にさかのぼることも含めて概観する。	講義/GW	兼任講師
2.	【学習理論】 学習をめぐる諸理論と、それらに基づく学習方法を理解する。アクティブ・ラーニング、ICT教育についても扱う。	講義/GW	兼任講師
3.	【発達段階論とアイデンティティ(ID)】 発達段階論を概観したうえで、青年期の発達課題である職業的ID、特に看護職IDを把握する。	講義/演習	兼任講師
4.	【看護職アイデンティティ(ID)の効果と要因その1】	講義/演習	兼任講師
5.	【看護職アイデンティティ(ID)の効果と要因その2】	講義/演習	兼任講師
6.	【新人看護師の看護職アイデンティティ(ID)の形成過程】	講義/視聴	兼任講師
7.	【ピグマリオン効果、社会的促進など】 教育学におけるいくつかのキーワードについて、看護実践への適用例も含めつつ、理解を深める。	講義	兼任講師
8.	【中間筆記試験と生涯学習】	講義	兼任講師
9.	【養護教諭の仕事】 養護教諭の職務内容や専門性を理解する。	講義	兼任講師
10.	【ディスカッションの技法】	講義/GW	兼任講師
11.	【いじめ】 教育問題としてのいじめの現状や原因、構造を理解し、予防策や解決策を考える。	講義/GW	兼任講師
12.	【特別支援教育】	講義/GW	兼任講師
13.	【ジェンダー】 ジェンダー論の基本的な概念を理解し、ジェンダー不平等を是正する方策を考える。	講義/GW	兼任講師
14.	【学習評価】 学習評価論を整理し、学習評価の方法を理解する。	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	哲学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	3	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間存在の基盤である身体とその行為を通してなされる表現そして存在との関係によって形成される世界について考察し、人間らしさとは何かを問う。		
目標	自己の存在の根源を探求し、他者の存在や世界との関係をよりよく構築するための基盤を作ること为目标とする。		
成績評価の方法と基準	期末レポート 50% ワーク参加点 50%		
使用テキスト・教材	羽矢辰夫著 『ゴータマ・ブッダ』 春秋社		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	マインドフルネスについて	講義	兼任講師
2.	ブッダ以前の哲学 1 仏教の起源	講義	兼任講師
3.	ブッダ以前の哲学 2 神々の世界	講義	兼任講師
4.	ブッダ以前の哲学 3 宗教から哲学へ	講義	兼任講師
5.	ブッダの哲学 1 多様な価値観・世界観	講義	兼任講師
6.	ブッダの哲学 2 幸福(涅槃)とは何か	講義	兼任講師
7.	ブッダの哲学 3 愛(慈悲)とは何か	講義	兼任講師
8.	ブッダの哲学 4 倫理を超える	講義	兼任講師
9.	ブッダの哲学 5 人間はなぜ死を恐れるのか	講義	兼任講師
10.	ブッダの哲学 6 人間はなぜ殺しあうのか	講義	兼任講師
11.	ブッダの哲学 7 人間はなぜ環境を壊すのか	講義	兼任講師
12.	ブッダの哲学 8 医療に生かす	講義	兼任講師
13.	空の哲学	講義	兼任講師
14.	唯識の哲学	講義	兼任講師
15.	まとめ 期末レポート	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	社会学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	・医療関係者としての社会的知識を収得する。 ・現代社会における家族の在り方を理解する。 ・医療関係者の現状と課題を理解する。		
目標	・人間家族の特質の理解 ・少子化、核家族、ライフサイクルの変化、高齢社会の理解 ・家族看護のあり方 ・医療関係者の現状の理解 ・性、ジェンダーの現状の理解 ・労働環境と健康・病気の理解		
成績評価の方法と基準	単位修得試験80%・レポート20%		
使用テキスト・教材	系統看護 基礎5 社会学 医学書院 系統看護 別巻 家族看護学 医学書院		
履修にあたっての留意点	授業中に適時、参考資料を配布、文献の紹介をする。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	社会学の基礎概念：行動と行為、相互作用	講義	兼任講師
2.	集団論、組織論（未組織集団）	講義	兼任講師
3.	組織集団（官僚制組織）	講義	兼任講師
4.	社会調査	講義	兼任講師
5.	家族の形態と家族構造の変遷	講義	兼任講師
6.	家族看護（ライフサイクルと家族）、高齢化社会の現状	講義	兼任講師
7.	現代家族の問題点（出生率の低下・非婚化）	講義	兼任講師
8.	家族看護の展開	講義	兼任講師
9.	健康、病気行動と病経験、社会格差	講義	兼任講師
10.	わが国の医療を取り巻く現状と課題	講義	兼任講師
11.	保健医療の専門職	講義	兼任講師
12.	医療関係者とコミュニケーション	講義	兼任講師
13.	性・ジェンダー：家族と保健医療	講義	兼任講師
14.	労働環境と健康・病気	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	人間関係論 I
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	自己を振り返り、自己のあり方に気付くこと、他者との関係性を築き、相互に成長していくためにアサーティブコミュニケーションについて学習を深める。		
目標			
成績評価の方法と基準	リアクションペーパー25% グループワークおよび演習態度(積極性/傾聴力)25% 筆記テスト50%		
使用テキスト・教材	仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	オリエンテーション なりたい自分になろう	講義 演習 グループ	兼任講師
2.	自分から出る 表現しないことも表現していることになることに気付く	講義 演習 グループ	兼任講師
3.	コミュニケーションの基本センスをみがく「聴く」を表現する・非言語的コミュニケーション	講義 演習 グループ	兼任講師
4.	コミュニケーションの基本センスをみがく「話す」	講義 演習 グループ	兼任講師
5.	気持ちを受け止める メッセージの背後にあるもの	講義 演習 グループ	兼任講師
6.	「感じる」を大切にする メッセージのオーラを見てみよう	講義 演習 グループ	兼任講師
7.	気持ちを受けとめる表現 まず受け止める表現を習慣づけよう	講義 演習 グループ	兼任講師
8.	準拠枠とは 共感、同意、みんなちがってみんないい	講義 演習 グループ	兼任講師
9.	1回1回の対応を大切に 丁寧なコミュニケーションは日々の積み重ね	講義 演習 グループ	兼任講師
10.	読み取る力・表現する力	講義 演習 グループ	兼任講師
11.	相手を受け止めつつ、いかに自分のを主張するか アサーティブ・コミュニケーションとは	講義 演習 グループ	兼任講師
12.	相手を知り、相手を生かす	講義 演習 グループ	兼任講師
13.	質問・インタビュー	講義 演習 グループ	兼任講師
14.	笑いあう関係を育てていくこと	講義 演習 グループ	兼任講師
15.	テスト まとめ	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	人間関係論Ⅱ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	自己と他者との相違に気付き、他者理解の重要性を知る。 他者理解にもつながる自己開示のプロセスを知り、自己表現に組み込めることを目指す。 他者とチームアップするために必要なリーダーシップとメンバーシップについて学び、自己の行動に反映させる。		
目標	・自己開示のメカニズムを知る。 ・自己開示に必要な自己認知や自己表現を8個の表現要素で実践する。 ・個人内コミュニケーションの重要性を知る。 ・リーダーシップ、メンバーシップ等をチームビルディングのプロセスから体験する。		
成績評価の方法と基準	①第3回提出課題「自己開示とは」 ②「校外学習後の振り返り・今後の自分の取り組み」(②の提出期限は講師から伝達する) レポート評価100%		
使用テキスト・教材	なし		
履修にあたっての留意点	第1回(4月)には、運動のできる服装が望ましい。スカートは不可。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	アイスブレイク、自己開示	講義・演習	兼任講師
2.	アイスブレイク、自己開示	講義・演習	兼任講師
3.	「コミュニケーションとは」の振り返り 課題「自己開示とは」提出、自己開示のメカニズム、返報性とは	講義	兼任講師
4.	自己開示の手前にある自己表現について 「8つの表現容素」の活用ー自己顕示にならない自己表現	講義	兼任講師
5.	校外学習のガイダンス 校外学習において自分が取り組みたい「他者とのかかわり方」について明確化	講義	兼任講師
6.	校外学習	体験学習	兼任講師
7.	校外学習	体験学習	兼任講師
8.	校外学習	体験学習	兼任講師
9.	校外学習	体験学習	兼任講師
10.	校外学習	体験学習	兼任講師
11.	校外学習	体験学習	兼任講師
12.	校外学習	体験学習	兼任講師
13.	校外学習	体験学習	兼任講師
14.	校外学習振り返りからコミュニケーションについて考える 自己開示のプロセスから自分の在り方を振り返る	講義	兼任講師
15.	看護師として、他者と人間関係を築くための自分の取り組みを明確化し、具体的な目標を設定する	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	倫理学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	倫理とは何か、生命の尊厳と人権擁護について理解し、医療現場に山積する倫理的問題について考えることによって、倫理観を養う。		
目標	さまざまな倫理的問題について、自分で考え、自分のことばで意見を表明できるようになることを目標とする。		
成績評価の方法と基準	期末レポート 50% ワーク参加点 50%		
使用テキスト・教材	星野一正著 『医療の倫理』 岩波書店（新書）		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	倫理とは何か。	講義	兼任講師
2.	「わたし」を問う。 生老病死の有り様を考える（1）	講義	兼任講師
3.	「わたし」を問う。 生老病死の有り様を考える（2）	講義	兼任講師
4.	「わたし」を問う。 生老病死の有り様を考える（3）	講義	兼任講師
5.	「わたし」を問う。 生老病死の関係を考える（1）	講義	兼任講師
6.	「わたし」を問う。 生老病死の関係を考える（2）	講義	兼任講師
7.	「わたし」を問う。 生老病死の関係を考える（3）	講義	兼任講師
8.	『医療の倫理』を読む（1）	講義	兼任講師
9.	『医療の倫理』を読む（2）	講義	兼任講師
10.	『医療の倫理』を読む（3）	講義	兼任講師
11.	『医療の倫理』を読む（4）	講義	兼任講師
12.	『医療の倫理』を読む（5）	講義	兼任講師
13.	『医療の倫理』を読む（6）	講義	兼任講師
14.	臨地実習について	講義	兼任講師
15.	まとめ 期末レポート	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	環境学
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間と環境との作用から健康に影響を与える因子について理解し、看護活動に活かす。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	はじめに～公害事件	講義	兼任講師
2.	食の安全	講義	兼任講師
3.	化学的環境因子(一般大気)	講義	兼任講師
4.	上水道と下水道 それぞれの仕組みと健康とのかかわりについて	講義	兼任講師
5.	水質汚濁(廃棄物) 汚染の原因と健康・環境への影響	講義	兼任講師
6.	化学的環境因子(大気汚染と呼吸器疾患)	講義	兼任講師
7.	物理的環境因子(温熱・騒音振動・放射線の健康への影響)	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	基礎分野	科目名	医療英語
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	国際化に対応するために、実践的な看護場面での英会話の基本と英文文献の読解力を養う。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	やさしい看護英語(How are you Feeling Today?) 成美堂 事例で学ぶ看護英語 成美堂		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	Unit1. 安全な生活環境 (リーディング) 授業説明	講義、グループワーク	兼任講師
2.	Lesson1. In the Lobby of the Hospital (英会話) Unit2. 身体の清潔(リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
3.	Lesson2. Registrarion (英会話) Unit3.呼吸困難の看護 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
4.	Lesson3.Checking the Registration Card (英会話) Unit4.体液バランス(リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
5.	Lesson4.Finding the Way (英会話) Unit5.睡眠と心の健康 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
6.	Lesson5.Personal History (英会話) Unit6.リウマチ患者の介護 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
7.	Lesson6.Daily Activities (英会話) Unit7.摂食障害と食事指導 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
8.	Lesson7.More about Daily Activities (英会話) Unit8.膀胱カテーテル留置(リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
9.	Lesson8.Asking about Symptoms (英会話) Unit9.排泄とその援助 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
10.	Lesson9. More about Symptoms (英会話) Unit10.リハビリテーションとケア (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
11.	Lesson10.Checking Blood Pressure and Weight Unit11.小児のやけど	講義、グループワーク	兼任講師
12.	Lesson11.Laboratory Specimens (英会話) Unit12.加齢に伴う健康問題 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
13.	Lesson12.Taking Medicines (英会話) Unit13.手術前・後の看護 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
14.	Unit14.Memory Impairment 認知症 (リーディング) Unit15.生活習慣と健康 (リーディング)	グループワーク	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	芸術
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師*、兼任講師 *実務経験のある教員		
目的	地域の郷土芸能をはじめ、さまざまな芸術を通して、豊かな人間性の創造をめざし、感性を磨く。		
目標			
成績評価の方法と基準	出席状況・授業態度・レポート 100%		
使用テキスト・教材			
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	オリエンテーション・音楽と医療の関連性	講義	兼任講師
2.	体操 ボディパーカッション CD鑑賞	演習鑑賞	兼任講師
3.	体操 ボディパーカッション CD鑑賞	演習鑑賞	兼任講師
4.	体操 ボディパーカッション CD鑑賞	演習鑑賞	兼任講師
5.	体操 ハンドベル CD鑑賞	演習鑑賞	兼任講師
6.	体操 ハンドベル CD鑑賞	講義鑑賞	兼任講師
7.	体操 ハンドベル CD鑑賞	演習鑑賞	兼任講師
8.	体操・発声練習 合唱(ほたる) CD鑑賞 ※変更の可能性あり	演習鑑賞	兼任講師
9.	体操・発声練習 合唱(ほたる) CD鑑賞 ※変更の可能性あり	演習鑑賞	兼任講師
10.	体操・発声練習 合唱(ほたる) CD鑑賞 ※変更の可能性あり	演習鑑賞	兼任講師
11.	体操・発声練習 合唱(ナイチンゲール讃歌) CD鑑賞 歌遊び(どんぐりころころetc) ※変更の可能性あり	演習鑑賞	兼任講師
12.	発声練習 音楽療法について・CD鑑賞(ストレスvsリラクゼーション)	講義鑑賞	兼任講師
13.	映画鑑賞・音楽鑑賞・絵画鑑賞	鑑賞	専任講師*
14.	映画鑑賞・音楽鑑賞・絵画鑑賞	鑑賞	専任講師*
15.	映画鑑賞・音楽鑑賞・絵画鑑賞	鑑賞	専任講師*
16.			